

KUNST ARZT では、3年振り4回目となる松本さやかの個展を開催します。松本さやかは、彼女の心の中に存在する“生きた山”を表現し続けるアーティストです。本展は、ガラスをエングレービングする「fact シリーズ」(2017-)と、白いモデリングペーストで白いパネルに凹凸をつける「camouflage シリーズ」(2021-)の作品で構成します。約10年近く、全くブレることのないスタンスからは、アミニズム以上の何かを感じてもらえると思います。ご注目ください。

(KUNST ARZT 岡本光博)



gunung -camouflage#1  
2021

### 「フシアナの目」

見つめた先のものは何を伝えているのだろう。  
上辺だけではわからない、ものごとの真意や現実。

わたしたちの目はいつも何かを捉えながらも、その物事の奥までは掴みません。  
作品から伝わるイメージは、見た人それぞれに違う印象を与え、  
そしてそれは作者の意図とは離れたところで新しい解釈を生み出します。

何が正しいのかではなく、どう捉えられるのか。  
わかったような、わからないような感覚が、さらに視覚の奥へと引き込みます。  
「真意を捉えられない目」と「曖昧にしか伝えられない表現」だからこそ、  
だれかの心に響くものになるのだと思いたい。

### 経歴

1991年 兵庫県生まれ  
2016年 京都精華大学大学院 博士前期課程芸術研究科 芸術専攻 版画領域 修了

### 個展

2015年 「gunung」 KUNST ARZT 京都  
2016年 「STROKE」 ギャラリーいのくま亭 京都  
2017年 「2つの意識 -unstable consciousness-」 KUNST ARZT 京都  
2017年 「in fact,」 Midnight Sun 大阪  
2019年 「utopia」 KUNSTARZT 京都

### 主なグループ展ほか

2018年 映画「きらきら眼鏡」舞台美術品として  
2019-2020年 巡回展「timelake 2019」大阪 札幌 高松 東京  
2020年 「京都府新鋭選抜展 Art for Tomorrow 2020」京都文化博物館  
2021年 2人展「alt・to -交わる延長線-」 SAVE AREA 埼玉  
2021年 「空白の果て」 亀岡商工会館 京都

2022年3月1日(火)から6日(日)

12:00から18:00

会場: KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

## フシアナの目

incomplete eyes

### アーティストステートメント

人はどんな時、どんなものに心を引かれるのだろう。  
わたしは、人の心がはっとする感覚や、その瞬間に興味があります。  
「圧倒的な何か」に出会ったとき、わたしは気圧され、その何かに吸い込まれたような感覚を覚えます。  
それは一瞬のうちに動きを封じ、呼吸も忘れ、目が離せなくなってしまう。  
言葉で表現をするのは難しいけれど、確かに存在する、不思議な感覚です。  
そしてこの心を震わせる感覚は、いつも作品をつくる原点となっています。

わたしはその場・その物から放たれる雰囲気やイメージを捉えようとしています。  
そこに溜まる空気感や、有るようでないアウトラインは、わたしの心を惹き付けると同時に違和感を覚えさせます。  
目には見えないけれど感じるもの、目に見えている気がするのにはないもの。  
これらはとても矛盾だらけで曖昧なものだけれど、「感覚」という言葉を介して存在しています。  
このアーティストステートメントもとに、「gunung」シリーズを作り続けています。

### 【gunungシリーズコンセプト】

わたしは山を見つめると言葉にし難い、様々な感情に駆られます。  
それは尊さや恐怖感、奇妙さ、凜々しい姿への憧れなど、全く統一のされていない、様々なことが交錯した感情です。

このような感覚を覚えるのは、わたしが山を「風景」ではなく、「生き物」として捉えているからです。  
時間をかけて変容していく様は、山の大きな呼吸のようで、この呼吸こそ山の生きている証のように思えます。

「gunung」(グヌン)とはインドネシア語で「山」という意味です。  
わたしはこの言葉を聞いた時に、山の鼓動音や呼吸の様な、「山の生きている音」を表しているという印象を受けました。  
そしてそのイメージは、山を生き物として捉える私の作品と繋がっていると考えています。

わたしの描く山は存在しない、空想の山です。  
日々イマジネーションの山を捉えるという行為を繰り返し、  
自身の感覚から生まれる「現実には存在しない山」に呼吸とエネルギーを刻み込みます。  
また、その山を概念的に描くことで空想上のものであることを伝えると同時に、  
「風景」ではなく、「生き物」として山を表現できればと考えています。



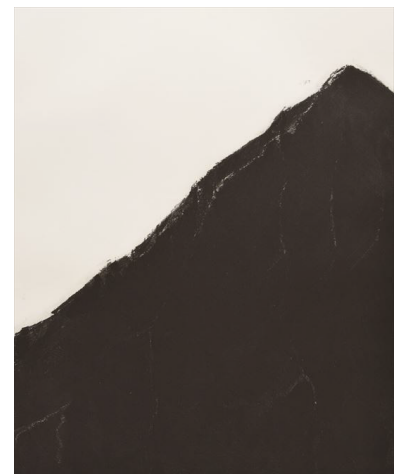
gunung -fact#3

2017  
エングレービングしたガラス



gunung #6

2014  
銅版画;  
ハーネミュレ 油性インク



gunung #2

2014  
銅版画;  
ハーネミュレ 油性インク